

令和7年度 学校評価報告書（後 期）					鬼北町立三島小学校							
【評定の評価基準】 A：80%以上達成 B：70%以上達成 C：60%以上達成 D：50%以上達成 E：50%未満												
【アンケート結果】 4：できている 3：おおむねできた 2：あまりできていない 1：ほとんどできていない												
領域	重点目標	評価指標	評定	考察（◇）及び改善方策（◆）	評価資料	評定	評価指数	4	3	2	1	
I 明るく	明るい対話	①子供たちは、地域のことを知ったり、地域の方と交流したりできている。	A 90.4%	◇今年度も多くの地域の方に関わっていただき、学校行事や戸祇の子学級、総合的な学習の時間等で充実した活動ができた。学習や交流を通して、ふるさとを大切に思う児童が育ってきている。学習内容を発表する機会を持ち、保護者や地域の方に見ていただきたいという意見があった。 ◆今後も、地域学習や交流活動、地域行事などに、児童がねらいを持って主体的に活動できるよう、計画的に取り組んでいきたい。また、活動の成果を発表する場の設定について検討したい。	地域住民	A	96.9%	87.5%	12.5%	0.0%	0.0%	
					教職員	A	90.6%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	
					保護者	A	83.9%	39.3%	57.1%	3.6%	0.0%	
					児童	A	90.2%	60.7%	39.3%	0.0%	0.0%	
					地域住民	A	91.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	
					教職員	A	81.3%	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	
	コミュニケーション力	②子供たちは、気持ちのよい挨拶ができている。	A 87.4%	◇通学路や玄関など決まった場所では気持ちのよい挨拶ができている。教職員の評価指数が下がっており、様々な場所でその場に応じた挨拶ができるよう指導を続けていく必要がある。 ◆児童の評価指数は上がっているので、称賛の声掛けを続け、さらに気持ちのよい挨拶ができるよう意欲を高めていく。また、場に応じた挨拶については教職員が手本を示し、「あいさつ日本一」の学校を目指していきたい。	保護者	A	86.6%	53.6%	39.3%	7.1%	0.0%	
					児童	A	90.2%	64.3%	32.1%	3.6%	0.0%	
		③子供たちは、正しい言葉遣いをしている。	B 75.7%	◇大人（地域住民・教職員・保護者）の視点からの評価指数は少し下がっており、ゲームやSNS、アニメの影響が心配される。「親しき中にも礼儀あり」ということを教えていく必要がある。 ◆まずは教職員が正しい言葉遣いの手本を示し、美しい言葉に触れる機会を増やしていきたい。また、学校評価の結果を保護者と共有し、ゲーム利用時のマナーや家庭での対話の重要性について共通理解を図ることで、学校・家庭の両面から改善を促すことが不可欠である。	地域住民	A	84.4%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	
						教職員	B	71.9%	12.5%	62.5%	25.0%	0.0%
					保護者	B	71.4%	3.6%	78.6%	17.9%	0.0%	
					児童	B	75.0%	10.7%	78.6%	10.7%	0.0%	
II 正しく	共に学ぶ力	④子供たちは、相手の方を向いて分かれようとして話を聞き、内容を聞き取る力が付いてきている。	B 78.3%	◇保護者の評定が下がっている。これまでの態度面での指導に加え、「聞き取る力」を付けていく新たな方策が必要である。 ◆「最後まで聞き切る」「否定せず一度受け止める」といった話合いのルールを徹底し、自分の主張だけでなく他者の意見を尊重して対話する姿勢を育んでいきたい。そのために、相手の意見を受けて話すという練習を重ねていくようにする。	教職員	B	75.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
					保護者	B	78.6%	25.0%	64.3%	10.7%	0.0%	
					児童	A	81.3%	32.1%	60.7%	7.1%	0.0%	
					教職員	B	78.1%	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	
	豊かな人間性	⑤子供たちは、人に分かりやすく話す力が付いてきている。	B 78.1%	◇みしま会議での意見発表や行事等での感想発表など全校の場で話す機会を多く持つことで、力が付いてきたと教職員は感じており、評定が上がっている。しかし、児童の評定は下がっている。 ◆児童の語彙数を増やすため、教室等に「つなぎ言葉」「気持ち・理由を表す言葉」の掲示や語彙カードを常設し、児童が見て使える環境を整える。また、集会等で教師が感想を伝えることで、分かりやすく話すためのモデルを児童に示すようにしたい。	保護者	B	76.8%	25.0%	57.1%	17.9%	0.0%	
					児童	B	79.5%	25.0%	67.9%	7.1%	0.0%	
		⑥子供たちは、学習に意欲的に取り組んでいる。	B 79.8%	◇児童の回答にばらつきが見られるが、評定はAに上がった。学ぶことの楽しさを実感している学年もあるようだ。しかし、保護者の評定が下がっている。 ◆努力したことやできるようになったことを認め、称賛し、頑張りを体感させていくことで、さらに意欲を高めるようにする。家庭学習では「家庭学習のふりかえりカード」を活用し、各自の取組を確認させ、次の月に生かせるよう、家庭と連携していきたい。	教職員	A	81.3%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	
						保護者	B	75.0%	17.9%	67.9%	10.7%	3.6%
						児童	A	83.0%	46.4%	42.9%	7.1%	3.6%
						教職員	C	62.5%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
II 正しく	共に学ぶ力	⑦子供たちは、本を読み、読書の習慣が付いてきた。	C 64.9%	◇児童の評定がCに下がり、全体の評定もCのままである。具体的な対策を考え、全校的に取り組んでいく必要がある。 ◆担任と一緒に行う読書の時間の確保や、保護者と一緒に読書に親しむ時間の奨励を行いたい。また、児童の希望を優先して図書購入をしたり、効果的にICT機器を活用したりすることで、読書への関心を高めたい。	保護者	C	63.4%	10.7%	42.9%	35.7%	10.7%	
					児童	C	68.8%	25.0%	35.7%	28.6%	10.7%	
					教職員	A	87.5%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	豊かな人間性	⑧子供たちは、タブレットや辞書を使う力が付いてきた。	A 90.2%	◇日常的にタブレットを使うようになっており、高い評価を維持している。また、分からない言葉を辞書で調べる習慣も身に付いている。 ◆児童がタブレットを効果的に活用する力を付けるために、教職員はICTの研修をしたり、デジタルとアナログのベストミックスを意識した授業を行ったりする必要がある。	児童	A	92.9%	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	
		⑨子供たちは、友達を思いやり、大切にしている。	A 89.7%	◇A評定を維持しており、教職員と児童の評価指数が上がっている。トラブルを察知して「三島ルール」を作るなど、全校体制で解決に向けて取り組んだ成果であると考えられる。 ◆友達同士の挨拶、高学年による低学年への思いやり、学年を越えたつながりなど、少人数学校の良さが生きている。今後も三島の伝統として大切にしていきたい。	地域住民	A	84.4%	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	
						教職員	A	90.6%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%
						保護者	A	90.2%	60.7%	39.3%	0.0%	0.0%
						児童	A	93.8%	78.6%	17.9%	3.6%	0.0%
		⑩子供たちは、困ったときは誰かに相談する雰囲気ができている。	A 88.2%	◇前期に「1」を付けた児童がいたが、後期には「1」がない。また、保護者の中で「2」を付けていた人の評価も上がっている。しかし、児童の中には「2」がいるので、引き続き気を付けていかなければならない。 ◆教育相談についての研修等を行ったり、自己研修をしたりして、児童の期待に応えられる技能を身に付けたい。何より児童が話しかけてきたときに、ゆっくり話を聞く心のゆとりを持つよう心掛けたい。	教職員	A	90.6%	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	
						保護者	A	85.7%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%
			児童	A	88.4%	64.3%	25.0%	10.7%	0.0%			

